

車掌の要員減（3名→2名）は安全軽視だ！

人員削減・営利優先に走る姿勢で、現場では社員の怒りが爆発している！

12月21日、会社は、「新幹線車内業務の見直しについて」業務委員会の中で提案を行いました。提案の内容は、実施内容として、

(1)乗務体制の見直し

- ①パーサーの役割の拡大
- ②運転士と車掌のクルー化
- ③短区間巡回の設定
- ④短区間行路の設定

(2)車掌とパーサーの基準乗組み数の見直し

の内容を明らかにし、「施策による要員増減は別途提示する。」「実施時期は、平成30年3月（予定）」としています。

「新幹線列車火災(のぞみ225号)」

「傷害事件(のぞみ38号)」の教訓を生かしたのか！？

私たちは、業務委員会において、2015年6月30日に発生したのぞみ225号の列車火災等の異常時の教訓が生かされていないことと、安全を軽視した要員減は社会的にも受け入れられない代物であると抗議し、提案の撤回を求めました。

配付された資料には2項目の内容となっておりますが、私たちにとっては「基準乗組み数の見直し」の部分が特に問題であると考えます。人件費を削減し、収入をより一層増やそうとする姿勢は、リニア建設のためなら「安全」をも担保にするといった営利優先としか言えません。労働組合としては、安全を確保する車掌の数を減らすことは直接、安全を脅かすことに繋がるため今回の提案は受け入れられません。

職場では不安と心配の声が渦巻いています！

会社は、「今後は申し入れについては必要により業務委員会を開催していく」と答えましたが、その今後の進め方を確認すると未定としました。当日、プレス発表された資料には「今後各労働組合と協議してまいります」とわざわざ表明していますが、実施そのものについて協議するのか、実施内容に沿って労働組合との協議を淡々と進めていくのか、私たちは職場で汗し苦勞している社員、不安と心配を抱く職場の多くの声を代表して闘っていきます。職場では関係する所長掲示が出され、助役が個人面談の中で社員に対してどう思うかと意見を聞き出していますが、助役自身も「ワシも異常時の時が大変やと思う」と本音を漏らしています。

奇しくも、12月22日、小田原・新横浜間で沿線火災が発生し2時間を越える大幅な列車遅延・運休が深夜まで発生しました。当日、乗務した各列車の車掌（クルー3名）は、旅客の安全や案内のために大変苦勞しました。この現実が提案された内容でもし実施されたなら、2名となる車掌では、今よりもはるかにサービスの低下だけでなく安全を守る余裕、時間がなくなることを示す現実として突きつけられました。